

CNA Report Japan

Newsletter focused on
Collaborative Conferencing

Conferencing News & Analysis— Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 7. No. 4 2005 年 2 月 28 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集:橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2005 Kay Office All rights reserved.

ニュース項目

■UCM、高機能を備えながらも价格的に求めやすい多 地点接続装置リリース



UCM-3000 シリーズ

ユナイテッド・コミュニケーション・メディア(以下、UCM、本社米アトランタ、日本オフィス:大阪府大阪市)は、2004 年 9 月に設立された多地点接続装置(MCU)やTVウォールを開発している会社。

MCUは、以前に比べ価格は下がってきたとはいえ、まだまだ高止まりしているという感が強い。UCMは、こういった市場の状況に対して、「今までの市場は价格的に非現実的だったと見る。単に価格だけを優位に掲げるつもりはないが、IPテレビ会議での多地点会議をより一般的なものとするため、高機能を備えながらも价格的に求めやすいMCUを開発した。当社の製品は単純なMe-Too製品ではなく独自のコンセプトをもった製品と自負している。」(同社テクニカルディレクター 河村 圭介氏)

UCMでは、多地点接続装置として、主力モデルの「UCM-3000シリーズ」、そして廉価モデル「UCM-2000シリーズ」を販売している。

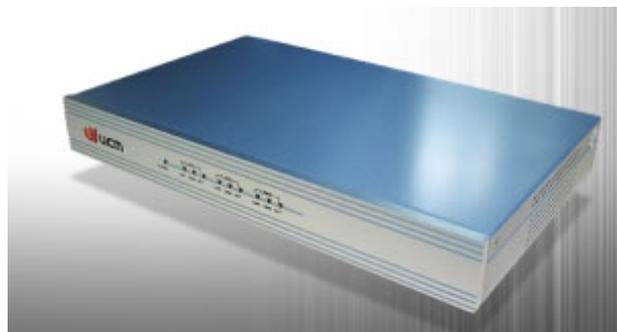
まず、「UCM-3000シリーズ」は、ユーザーのニーズに応じて3機種17グレードの製品ラインナップがある。このシリーズの製品は、最大4Mbpsの帯域幅をサポートしており、機種やグレードに応じて最大8から96拠点の同時接続が可能(386kbps時)。接続方法については、端末からIPアドレスまたはE.164エイリアスでMCUをコールするか、MCUからIPアドレス又はE.164エイリアスで各端末をコールする方法がある。

その他の特長としては、(1)多彩な画面分割レイアウト、(2)異速度通信、(3)拠点名表示、(4)話者枠表示(黄色い枠が話している人)、(5)会議スケジュール設定機能、(6)複数会議同時開催、(7)3つのLANポート装備、(8)1Uサイズのコンパクト設計、などがある。

またオプション機能としては、(1)H.323 ゲートキーパー、(2)ポリコム(People+Content)、タンバーク(Duo Video)、ソニー(Dual Video)それぞれの各社独自の2画面表示に対応したDual Video機能(ただし混在端末の場合の会議では可能ではない)、(3)H.281に対応したファームウェアカメラコントロール、(4)ストリーミング配信、ライセンスフリーの専用ビューア(UCM Viewer)が付属、などとなっている。(1)から(4)の機能については、VPM(ビデオ処理モジュール)のハードウェア処理で実現する。

画面分割レイアウト(VPM 使用 Hard CP モード)については、2分割、2+1、3分割、4分割、5+1、7+1、4+3、9分割に対応。また、「現在16分割の開発を行っている。」(同社テクニカルディレクター 河村 圭介氏)画面分割レイアウトは、会議中の変更が可能、角枠内に端末名を表示、収まりきれない拠点を入れ替え表示などが可能。

VPMを使用しないSoft CPモード(ソフトウェア処理)では、発言者の声で切り替わる1画面モード(General モード)と、4画面分割に対応しているが、ハードウェア処理でないため、2つの画面モードのみで、後述の「UCM-2000シリーズ」は、VPMを搭載していないため、Soft CPモードで画面分割をソフトウェア処理する。



UCM-2000 シリーズ

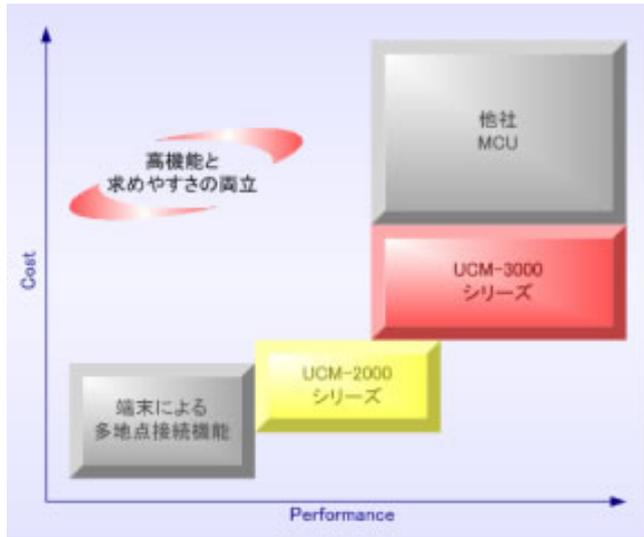
UCM-2000シリーズについては、UCM-3000シリーズの一

部機能を省いてより求めやすい価格を実現した、小型省スペース設計で会議室にも設置可能な廉価モデル。会議スケジュール設定機能、3つのLANポートを装備、オプション機能の H.323 ゲートキーパーは、UCM-3000 シリーズと同じ。接続方法については、UCM-3000 シリーズと同じく、端末からIPアドレスまたは E.164 エイリアスで MCU をコールするか、MCU から IP アドレス又は E.164 エイリアスで各端末をコールする方法がある。

UCM-3000 シリーズと違う点は、(1)同時会議開催数は、2つまでだが、最大 1920kbps の帯域幅に対応し、帯域幅にかかわらず最大9拠点同時接続が可能。(2)UCM-3000 シリーズではオプションとなる、Dual Video 機能、ファアエンドカメラコントロール、ストリーミング配信などの機能が標準に搭載されている。(3)4画面分割のレイアウトのみサポート。

オプションの H.323 ゲートキーパーについては、(1) E.164 エイリアスで MCU や他の端末を呼び出す、(2) UCM-MCU のテンプレート機能が使用可能、(3) UCM-MCU のグループコール機能が使用可能などの機能をサポートしている。

同社製品は、VCCI Class A(情報処理装置等電波障害自主規制協議会)、そして、FCC Class A(電子機器から放射される電波許容値を規定した FCC 規格)を取得している。



今後の製品については、「MCUについては、HardCP時の16分割、4CIF、H.264などに対応することにより、機能拡充、そして使いやすいWebUIなどによる利便性の向上、各国のマーケットに合わせたラインナップの最適化(国内

では、2000シリーズの仕様変更)を図っていく。今後も市場拡大に当社としても寄与したいと考える。」(同社 テクニカルディレクター 河村 圭介氏)さらにMCU以外でも、IPコミュニケーションに関連した製品の開発を行っていく予定だ。

同社では、MCU製品以外に、カスケードにより最大 104 台の TV モニターに出力可能な TV ウォール機能を持った UCM-5000 シリーズも提供している。一例としてTVウォール UCM-5000 シリーズと、同社の MCU と組み合わせて個別の TV モニター画面に表示させる機能を持つ。

VCON <http://www.vcon.com>



ー日本地方自治体等導入実績
ーPC タイプのテレビ会議システムからセットトップタイプのものから MXM メディアエクステンジサーバー、MCU、ストリーミング、開発ツールキットなど幅広いニーズに対応。
H.323 対応 PC 用会議システム vPoint HD
H.264 対応

<AD>

■チューリッヒ保険、インターネットを使った対面型の新サービスを開始、WebEx の「WebEx Support Center」を導入

ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン(東京都港区)の発表によると、損害保険事業を展開するチューリッヒ保険会社(東京都新宿区)は、ウェブエックスのリアルタイム・コミュニケーション・システムである「WebEx Support Center」(TOCSR)を利用して、インターネットによる対面サービス「スマートコミュニケーション」を開始した。導入は、ウェブエックス社の代理店である NTT-ME(東京都豊島区)がサービスを提供した。保険業としては日本初で、顧客に対するサービスの利便性をさらに向上を図る。TOCSR は、NTT-ME でのサービス名。

スマートコミュニケーションによって、利用者は自宅にいながらにして、チューリッヒのケアスタッフと電話で通話しながら、指定されたウェブサイトアクセスすることで、自動車保険に関する対面型のコンサルテーションを受けることが可能になる。利用者は、インターネットに接続された PC と電話以外の専用機器は必要としない。また、現在加入の検討をしている

人もこの対面型コミュニケーションサービスを活用することができる。

WebEx Support Center は、ウェブエックス社が提供しているビジネスコミュニケーションソリューションで、遠隔地にある拠点間の打ち合わせはもとより、各地に点在するサポートセンターやコールセンターにおける利用などで利用されている。

■ポリコム、SIP 対応の VoIP 音声会議システム及びエントリークラスのビデオ会議システムを発表



Polycom SoundStation IP4000

ポリコム(東京都千代田区)は、SIP 対応の VoIP 音声会議システム「SoundStation IP4000」と、同じく SIP 対応の VSX シリーズではエントリーモデルになる、「VSX6000 シリーズ」を発表した。

SIP 対応の SoundStation IP4000 は、オフィスや中規模の会議室に最適。3メートル離れた場所からでも集音ができ、オプションの拡張マイクによってさらに広い範囲(最大 6mX 9m)の集音が可能。全二重スピーカーフォン搭載、ノイズゲート機能でエコーとバックグラウンドノイズの軽減、248 X 68 画素の解像度を持つバックライト付液晶ディスプレイにより、転送、保留、リダイヤルなど、また、ダイヤル用ボタンでは、オンフック/オフフック、リダイヤル、ミュート、音量、など音声会議を行う上で便利な機能が搭載されている。

また、VoIP 電話機のため、イーサネットポートを持ち、動的 IP アドレス(DHCP) 及び固定 IP アドレスに対応。音声アルゴリズムは、G.711、G.729 をサポート。

その他では、着信音をユーザーが選択可能、通話着信

管理、着信拒否、通話タイマー、多言語ユーザーインターフェイス、通話者 ID、電話帳などさまざまな機能が搭載されている。

通話転送、通話者 ID などは、IP テレフォニーシステムでサポートされている場合に対応する。

対応している SIP ソリューションは、米 BroadSoft 社、及び米 Sylanro Systems 社などが提供しているものとなっている。



Polycom VSX6000(筐体は VSX7000 などと同じ)

VSX6000 シリーズは、「VSX7000 の廉価モデル。VSX6000 は、ISDN はサポートしていないが、上位機種の基本機能は踏襲している。また、H.323 だけでなく SIP にも対応している。」(ポリコム) (VSX7000 関連記事:CNA レポートジャパン Vol.5 No.17 2003 年 10 月 15 日号)

SIP については、米 Microsoft 社 (Microsoft Live Communication Server) 及び米 Nortel Networks 社 (Multimedia Communication Server 5100/5200) のソリューション環境での SIP (CNA レポートジャパン Vol.6 No.13 2004 年 8 月 15 日号) に、また、Cisco CallManager 4.0 ECS (CNA レポートジャパン Vol.6 No.16 2004 年 10 月 15 日号) に対応。VSX6000 を含む VSX シリーズは、米 Avaya 社の次世代ソリューション Video Telephony Solution Powered by Polycom にも採用される予定。(CNA レポートジャパン Vol.5 No.21 2003 年 12 月 15 日号)

VSX6000 の特長は、(1)ステレオ (Polycom StereoSurround) によるビデオ会議、(2)14khz のワイドバンドによる CD レベルの音質、(3)SoundStation VTX 1000 をマイクとして利用できる。VTX 1000 の集音力により本体から 6m 離れた話者の声を拾うことが可能、(4)H.264 最新の映像圧縮符号化方式採用、(5)不安定な IP ネット上でのパケットロス時

(結果として映像や音声の乱れ現象が起こる)の映像音声補正機能、(6)人物の映像と同時にPCのコンテンツをXGA ディスプレイに表示可能。デュアルビデオデータ共有の H.239 をサポート。並びに、ポリコム独自の People+Content IP もサポートしている。(7)自局側と相手側の映像を1つのモニター画面に表示することができるデュアルモニターエミュレーションに対応。(8)AES 暗号化機能、(9)Web ディレクタや多言語管理対応、通信記録レポート(CDR)、Address Book Utility のウェブインターフェイス、ネットワーク経由でPCから各種設定や遠隔操作が行える。(10)QuickTime を使ったリアルタイムストリーミングなどがある。(People+Content IP 関連記事:CNAレポートジャパン Vol.6 No.18 2004年11月15日号)

保守サポートについては、以下の通り。交換品即日発送サービスは、万一、システムが故障した場合、故障した製品・部品を返送する前に、交換品を発送するサービス。平日の 15:00 までに連絡、ポリコムのエンジニアが、交換が必要と判断した場合、交換品を同日中に発送する。

Standard	Premium	Premium Plus
技術サポート、エスカレーションサポート、ソフトウェアのアップデートとアップグレード		
工場返送によるパーツ交換	交換品即日発送サービス	
		オンサイトサポート

ポリコムによると、VSX6000 は、年間 3000 台の販売を計画する。

■VCON、H.323 と SIP に対応したゲートキーパー及びストリーミング内蔵の多地点接続装置を発表、MXM と Conference Moderator のバージョン 4.2 をリリース



VCON VCB2500

イスラエルのテレビ会議メーカーであるVCON社は、ゲートキーパー及びストリーミング内蔵の多地点接続装置「VCB2500」を発表。

VCB2500 の特長は、(1)ゲートキーパー機能内蔵、(2)

ストリーミング機能、(3)会議予約管理、(4)スピードマッチング、(5)画面分割、(6)音声トランスコーディング、(7)CD並の 20khz 音声、(8)H.264 映像符号化方式、(9)H.235 方式による会議の暗号化、(10)H.239 方式によるデータ共有、などがある。さらに、同社が提供するデスクトップテレビ会議システム「vPoint HD」が無償で付いてくる。

また、同社では、MXM (Media Exchange Manager) と Conference Moderator のバージョン 4.2 をリリース。MXM は、H.323 のビデオ会議ネットワークを運用管理するゲートキーパーソフトウェア。アップグレードにより、ウェブベースのインターフェイス操作が向上されて、LDAP (H.350) がサポートされる。アップグレードは、2005 年第一四半期から。

■トーマンサイバービジネス、Visual Nexus Secure Transport の販売を開始、ファイアーウォール/NAT 越えソリューション第2世代

トーマンサイバービジネス(東京都港区)は、同社が開発販売するビデオ会議製品 Visual Nexus ファミリーとなる「Visual Nexus Secure Transport」の販売開始を2月18日に発表した。出荷開始は、2月25日。Visual Nexus Secure Transport は、インターネット上の PC 向け H.323 ビデオ会議のセキュリティを向上させるソリューション。トーマンサイバービジネスとしては、ビデオ会議をますますフットワークの軽いコミュニケーションツールとしたいと考える。

セキュリティについては、(1)TCP ポート一つ(デフォルトポート 80 番)だけで、外部ネットワークとトンネリングを可能にする方式をとっている。そのため、ファイアーウォール上のセキュリティポリシーを変更せずにもビデオ会議を行う端末同士はプライベート IP アドレスのまま簡単にビデオ会議が行える。(2)暗号化技術(AES)採用によりファイアーウォールのセキュリティだけでなく、ビデオ会議の通話内容も外部の漏洩から守ることで通話のセキュリティを高める。セキュリティ用の鍵長も、128bit、192bit、256bit に対応し暗号化レベルを強化した。

従来の H.323 規格に準拠したビデオ会議製品は、以下のような問題(同社プレス発表から引用)があったが、今回の Visual Nexus Secure Transport はそれらの問題を解決ソリューションとしてリリースした。(1)インターネット経由のビデオ会議の際は、ビデオ会議端末にグローバル IP アドレスを割り当

てる必要がある。(2)インターネット経由のビデオ会議をプライベート IP アドレスのビデオ会議端末同士で行う場合は、多数の通信ポートを開放するなど、セキュリティ性を低下させかねないファイアーウォールのセキュリティポリシー設定変更の必要がある。(3)インターネット経由のビデオ会議の映像、音声、データが盗まれる可能性がある。

Visual Nexus Secure Transport の価格は、505,000 円(同時 5 ユーザから、税別)。

(Visual Nexus 製品関連記事:CNAレポートジャパン 販売開始:Vol.5 No.6 2003年3月31日号、バージョン2リリース:Vol.5 No.21 2003年12月15日号)

■アイピー・ネット、テレビ会議ソリューションの強化、テレビ会議お手軽パック発売、NTT ドコモの FOMA ソリューションとの連携

アイピー・ネット(東京都江東区)は、テレビ会議お手軽パックを発表(CNAレポートジャパン Vol.7 No.3 2005年2月15日)。現在6月30日まで割引キャンペーンを行っている。テレビ会議お手軽パックは、トーマンサイバービジネスが開発した、H.323 対応PC用テレビ会議システム「Visual Nexus」と、アプライアンスサーバー「VOCS」、ソニーのテレビ会議システム「PCS-11」を組み合わせて、設置及びトレーニングをパッケージした。

アイピー・ネットは、「Visual Nexus」の認定代理店(CNAレポートジャパン Vol.6 No.10 2005年6月30日)と同時に、「Visual Nexus」をコア技術とした、アプライアンスサーバー「VOCS シリーズ」(CNAレポートジャパン Vol.6 No.10 2005年6月30日)を提供している。

「Visual Nexus」の導入先については、さまざまな業種で導入されているが、主に支店長会議や社長訓辞などの社内会議等に使われているという。(アイピー・ネット)

また、NTT ドコモは、FOMA ソリューションとの連携で、「Visual Nexus」を採用。「Visual Nexus」のカスタマイズ性の高さを評価。連携によりコミュニケーションの多様化に対応したオフィスソリューションを提供したいとNTTドコモでは考える。今後NTTドコモ、アイピー・ネット、トーマンサイバービジネスとで共同で検討を重ねる。

アイピー・ネットは、沖電気の1部門からスピンアウトして1999年9月に設立された技術集団企業。社員数は、65名。

本社は東京だが、名古屋にも拠点がある。「NW インテグレーション」、「セキュリティ」、「セキュア・オフィス・コミュニケーション」の3本柱の事業からなる。Visual Nexus などのビジュアルコミュニケーション系の事業は、同社の「セキュア・オフィス・コミュニケーション」ソリューションとして提供している。

■ポリコム、ユニファイド・コラボレティブ・コミュニケーションを推進、テレビ会議メーカーのイメージ払拭へ

2月15日のポリコムでの記者発表会で社長の奥田智巳氏からの説明によると、ポリコム日本法人は、ポリコム全世界の売上げの7-8%。ビデオ会議売上げについてはワールドワイドでは、去年は全体の売上げの54%だったが、日本ではワールドワイドと若干違い、ビデオ会議については、7割、音声会議が1割、ネットワーク関連機器が2割となっているという。「日本は別として、全社的に見てビデオ会議が5割といえば、単にビデオ会議メーカーとは言えないのではないか。」(同社奥田智巳氏)

奥田氏がこう言うのも、ポリコムとしては、テレビ会議メーカーとしてのイメージを払拭したいという考えがある。事業の方向性としては、音声、ビデオ、ウェブ、データを統合、マルチエンドポイント、マルチプロトコル、マルチネットワークをベースとしたユニファイド・コラボレティブ・コミュニケーション(UCC)を推進する。

それをソリューションとして落とし込んだ場合、ポリコムとしては、WAN ネットワークは提供しないが、それ以外のコンポーネントについては提供しないとする考えが基底にあり、単なる互換性の確保だけでなく、あたかも同一製品としてシームレスに動くコミュニケーション環境を提供する考え。

UCC を実現するため同社は、マイクロソフトや Avaya、ノーテルネットワークスなどとワールドワイドな事業提携を行っている。その中で、ポリコムは、市場では、市場の先導役としての評価が高いという。

マイクロソフトとの協業はワールドワイドであるが北米が先行している。しかし、ポリコムが持つ Siren 7 がマイクロソフトで採用されているため、両社間の協業は最近始まったということではない。最近の両社との協業は今までの拡大版とのとらえ方が適切のようだ。

■蝶理情報システム、遠隔コラボレーションシステム開発コンポーネント「IC3」販売開始

蝶理情報システム(大阪府大阪市)は、遠隔コラボレーションシステム開発コンポーネント「IC3」を2月中旬から販売開始。「IC3」は、デスクトップ共有、ビデオ会議、リモートメンテナンス、e-Learning など、遠隔地を結び複数人で共同作業(遠隔コラボレーション)を行うシステムを容易に構築開発するためのコンポーネント。

開発コンポーネントのメリットについては、プレス発表資料によると、(1)システム開発者は、遠隔コラボレーションに必要な映像、音声処理、PCのデスクトップ共有、テキストチャットなどの機能を提供し、システムの迅速な構築を実現。(2)「IC3」を利用して開発されたシステムの利用者は、ブロードバンドルーターやプロキシサーバを介してインターネットに接続できる環境さえあれば、面倒な設定を行うことなく簡単に遠隔コラボレーションの機能を利用できる。(3)画像処理や音声処理に独自技術を利用し、利用する回線品質や用途に応じた映像、画像配信が可能。

主な機能としては、(1)インターネット対応、プロキシサーバ経由による接続、任意の1ポートで運用可能、(2)ファイアーウォール対応、(3)SSLによる暗号化対応、(4)4-32kbpsの低帯域 VBR 音声コーデック、(5)フレームレート、映像品質をダイナミックに変更する帯域制御可能な映像コーデック、(6)ActiveX 対応、(7)デスクトップ共有機能、(8)テキストチャット、(9)多言語対応(英語版から順次対応)など。

また、現在、90日間期間限定評価版が同社サイトからダウンロードできる。

■Compunetix 社、日本市場向けに CONTEX Summit リリース



CONTEX Summit

音声系多地点接続装置などを開発する米 Compunetix 社は、日本市場に向けて本格的に同社のハイエンド装置「CONTEX Summit」をリリースする。2月25日のNTT-MEとの共同セミナーで実機を紹介。

CONTEX Summit は、最大9600ポートの拡張性を持つ、SIP環境などにも対応した高性能大型多地点接続装置。2004年3月に北米初リリースの後、毎月複数システムを世界各国へ出荷している。豊富な会議用機能、ツールが装備され信頼性や拡張性などが高いシステムとなっている。一般のインスタントメッセージでの会議開始などのコマンド操作も行える。

同社の最大120ポート対応の企業向け音声会議多地点装置「audioVIRTUOSO」は、企業内PBXとの連動などで、大手電気機器メーカー、金融系、ITビジネス系、トレーニングサービスなどの日本企業でも導入実績がある。全世界では、25万ポート分の多地点装置を販売実績のある大手専門メーカー。(CNAレポートジャパン Vol.6 No.21 2004年12月31日号)

■SCOTTY 社、IP テレビ電話 mm745 事業を AuPix 社へ売却

オーストリア SCOTTY 社の事業リストラクチャリングの一環として、同社の IP テレビ電話 mm745 事業を AuPix 社へ売却することを決定。そのための IPR(知的財産権)について両社間で合意に達した。mm745 は、Equator チップを搭載した IP テレビ電話だが、SCOTTY 社としての方針がテキサス・インスツルメンツのチップをベースとした製品開発の考えを持っているため、Equator チップベースの mm745 を AuPix 社へ売却することとした。

売却により、SCOTTY 社は、AuPix 社より 12.5%の株式の取得、及び販売に基づくロイヤリティの支払いを受ける。AuPix 社の経営陣は、元英 Motion Media 社の経営陣からなる。Motion Media 社は、SCOTTY 社と合併して、SCOTTY Group となった経緯がある。(合併関連記事:CNA レポートジャパン Vol.6 No.12 2004年7月31日号)

ショートニュース項目

◆NTT 東日本(東京都新宿区)は、「フレッツフォン VP1000」の機能拡充に向けた取り組みを実施。テレビ電話による占いサービス「マイ占い師」へ試行サービスを提供。プロハウスとドンキホーテとの協力で本商品に搭載する Web ブラ

ウザ連携機能を開発。この機能を利用すれば、店頭に設置した「マイ占い師」テレビ画面上のボタンをタッチするだけで、希望の宛先(占い師)にテレビ電話で接続することが可能。試行は取り組みの一環として行われ、今後遠隔医療診断や衣料品販売などの対面式コミュニケーションシーンにおいて活用できると想定している。

◆米ポリコム、「V2IU」を発表。「V2IU」は、H.323 での IP テレビ会議で必ず問題になる NAT/ファイアウォールを超えるためのソリューション。ポリコム日本法人によると、日本でも近々にリリース予定とのこと。日本で発表された場合は、CNA レポートジャパンでも詳細のレポート記事を予定。

◆ネットワーク(東京都中央区)の、さまざまな機能で会議を進行でき、ウェブで会議操作が行える電話会議サービス「easyConference(イージーコンファレンス)」が、来月 3 月 6 日より新システムに切り替わり、会議の予約や制御にかかわる操作の使い勝手が向上する。また、予約不要、最大 60 名の同時会議参加が可能なクイックコールサービスでは、電話機からダイヤルアウト機能、ダイヤルアウト先切断、参加人数確認、ヘルプガイダンスなどの機能が 2 月 7 日より追加提供開始。同社の電話会議利用料金は 20 円/分(税別)。

◆モーラネット(東京都港区)は、テレビ会議サービス「MORA Video Conference」サービスの販売を 2 月 2 日より開始(サービス提供は 3 月 1 日)。ジャパンメディアシステム(東京都千代田区)の PC 用テレビ会議システムを基盤としたサービス。ASP タイプとサーバ導入の 2 種類ある。ASP タイプは、初期費用 1 ID あたり 59,800 円(税別)、月額費用 1 ID あたり 2,000 円(税別)。サーバ導入は、ライセンスのみの価格で 200 万円(税別)から。2005 年 12 月までに 3,000 ユーザーへの販売目標。

◆スカイウェブ(東京都新宿区)は、最大 100 席の VoIP 会議サーバ「SkyConference Ver.3.0」を 1 月 20 日から販売代理店を通して販売開始。IP 電話、ソフトフォン、携帯電話機、ビジネスホンなど端末を選ばない。同社の SkyIP-PBX と連携することにより SkyIP-PBX が持つ独自の 50 余りの内線制御機能(会議中の外線電話の保留転送、ピックアップ、内線番号をカンファレンス ID として一元管理などそのまま会議端末で有効活用できる。予約会議や臨時会議機能、会議開始方法として、ダイヤルアウト(呼び出し)、ダイヤルイ

ンなどがある。

◆米 WebEx 社は、同社が提供する Meeting サービスのプラットフォームとなる、MediaTone の機能とユーザーインターフェイスなどの操作のしやすさなどの面を強化した。追加費用なく即日から現在のユーザーは強化された機能などを利用

できる。

◆世界各地にあるイタリア商工会議所(CCIE)の 60 カ所に、イタリアアエスラ社のテレビ会議シ



ステムが導入されることになった。導入されるシステムは、セツトアップタイプの「Vega Star Silver-E」(写真上)。

◆米 WebEx 社は、米 Forbes 誌が発表したテクノロジー企業でもっとも成長力の高い企業 25 社リストの第 3 位になった。この Forbes 誌の 25 社リストに掲載されるのは 3 年連続。

◆ポリコム社の CEO ロバート・ハガティ氏は、米調査会社であるフロスト アンド サリバン社より、会議システムおよびコーポレーション市場における「CEO of the Year」に選ばれた。



◆オランダのテレビ会議メーカー Ex'ovision 社のウェブサイトによると、IBM グローバルリースプログラムで、Ex'ovision 社の「Eye Catcher」(写真左)が取り扱われる模様。Eye Catcher は、アイコンタクトを重視して設

計された、形状がスキャナー型のテレビ会議システム。鏡などを内蔵することによりアイコンタクトを合わせる。ユーデッキは他のテレビ会議メーカーのものを利用。(CNA レポートジャパン: Vol.5 No.20 2003 年 11 月 30 日号、Vol.6 No.4 2004 年 2 月 29 日号)

◆Ezenial 社の取締役会に、元国連大使の Gerald P. Carmen 氏が就任。Ezenial 社は、旧ビデオサーバー社として 90 年代に多地点接続装置市場でのトップメーカーであった米企業。

現在は、最近関連の特許などをタンバークに売却。リアルタイムコラボレーションのソリューションを米連邦政府関係機関向けに主に販売している。

◆SCOTTY 社、100 台以上のテレビ電話購入の場合、色のカスタマイズに対応。対象のテレビ電話は、「mm225」 ISDN テレビ電話、「mm156」 IP/PSTN テレビ電話、「mm146」 IP テレビ電話が対象。

◆シンガポールの通信事業者 Singtel の第三世代携帯電話(3G)でのビデオコールサービスにイスラエルのラドビジョンの3G 向けテレビ会議技術が採用された。H.324M の携帯テレビ電話から、IP ベースビデオ留守番機能をもった PDA や、IP テレビ会議端末(SIP、H.323)、ISDN テレビ会議端末などとのシームレスな接続環境を提供する。システム構築は、Singtel 向けの IP ネットワーク構築を担当している富士通アジアが担当。

◆IPテレビ会議サービスの米 Wire One 社と、多地点接続サービス会社の米 V-Span 社が合併し、Wire One Communications 社となった。製品、ネットワークサービス、プロフェッショナルサービス、メンテナンス、会議運営、マネージドサービスなどエンドツーエンドのテレビ会議ソリューションを提供する。(合併関連記事:CNA レポートジャパン Vol.6 No.16 2004 年 10 月 15 日号ショートニュース)

NET&COM 2005

東京ビックサイトで2月2日から4日まで開催された日経BP社主催のNET&COM 2005 では、テレビ会議、ウェブ会議関係の企業が出展。



ブイテック

テレビ会議、電話会議などを販売するブイテック(東京都三鷹市)は、タンバークの TANBERG7000 や 150 テレビ会

議システム、ヴォルフビジョン(オーストリア本社、日本法人:東京都中野区)のビジュアルライザー(単に書類を拡大投影する機器ではなく、実物をよりリアルに、鮮明に美しく「見せる」ために開発されているため、同社では、一般の書画カメラと一線を画し、ビジュアルライザーと名づけている。)などを展示。

ブイテックのブースの隣では、ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパンが、同社の WebEx Meeting Center や WebEx Support Center などのデモを行っていた。



ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン

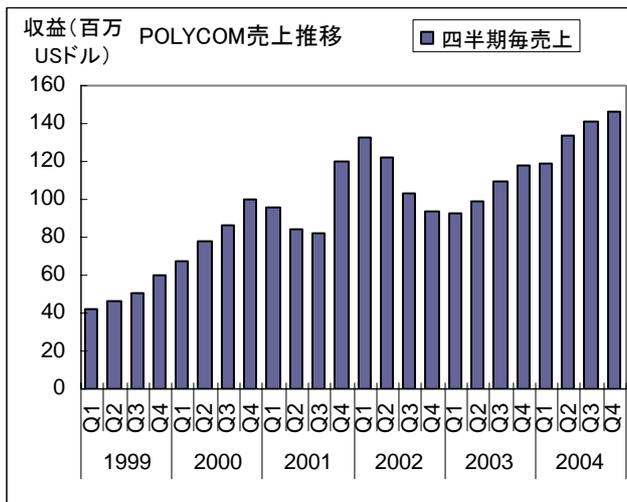
その他では、NTT マーケティングアクト中国(広島県広島市)が、提供している1ID2000 円から出来るウェブテレビ会議サービス「レッツミーティング」、同サービスに顧客管理、課金請求システムを提供しているエコス(東京都渋谷区)、ウェブブラウザでテレビ会議や資料共有が行えるジャパンメディア(東京都千代田区)の「Live On」、VoIP会議システム「SkyConference」のスカイウェブ(東京都新宿区)、日本ビクターの遠隔コミュニケーションシステム「SeeDream」を展示したトップネット(大阪府大阪市)、遠隔コラボレーションシステム開発用コンポーネント「IC3」を販売する蝶理情報システム(東京都豊島区)、IPビジュアルコミュニケーションシステム「NetCS series」の日立ハイブリットネットワーク(神奈川県横浜市)などが関連の製品など展示していた。

業績発表 2004 年 10 月-12 月期(第四四半期)

テレビ会議

■ポリコム

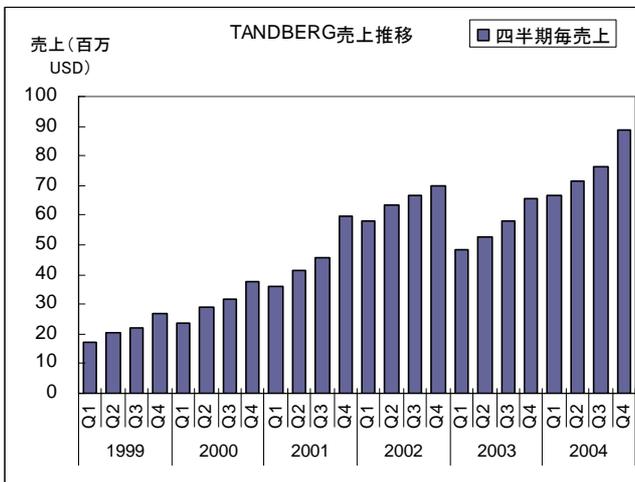
米ポリコム社が発表した 2004 年 10 月-12 月期第四四半期の業績発表によると、1 億 4650 万 USD(約 154 億 1300 万円)で過去最高の売上げを記録した。2004 年通年では、5 億 4030 万 USD(約 568 億円)で、2003 年の 4 億 2040 万 USD(約



442 億円)の 28.5%増。キャッシュフローも 27 四半期連続でプラスに推移。

第四四半期の売上げ構成については、53%がテレビ会議、26%がネットワークシステム、21%が音声会議の構成となっている。テレビ会議については、99 年第四四半期での 66%から年々割合が下がってきている傾向を呈している。同四半期での音声会議は、31%。ネットワークシステム関係が 2001 年くらいから入ってきたため、テレビ会議と音声会議端末売上げの相対的な割合は下がってきていた。

■タンバーク



タンバークの第四四半期は、8890 万 USD (約 93 億 2000 万円)の過去最高の売上げを記録。通年では、3 億 500 万 USD (約 320 億円)。また、テレビ会議の販売台数については、8,330 台で販売台数でも記録的数値となった。8,000 台の大台は初めて。粗利益が 66.7%、キャッシュフロー的にもプラスで推移。

売上げ構成については、テレビ会議端末が、76%、ネットワークシステム(MCU など)が 12%、付加価値サービスが

12%。地域別には、南北アメリカが、51%、EMEA(欧州中東アフリカ)が 36%、アジア太平洋が 13%。どの地域でも好調な業績だった。

アジア関係だと、日本では、大阪のガス会社が40カ所を結ぶテレビ会議システムの導入、タイ王国では、76 県と首相を結ぶテレビ会議システムの導入、中国上海消防局のテレビ会議導入などが同社の電話会議による業績発表で紹介された。また、アジア太平洋を統括する APAC プレジデント Benny Lee 氏就任。

提携関係では、マイクロソフト、シスコシステムズなどとの提携を強化。

BCS Tokyo 2005 出展企業募集

本年度も出展企業に集まって頂ければ、ウェブ会議、ビデオ会議、電話会議の専門展示会&セミナーBCS Tokyo 2005 の開催を予定しております。出展申込み期限は、3月30日。

ちなみに、昨年の詳細は <http://cnar.jp/bcs/> でご参照いただけます。編集長橋本は事務局として頑張ります。

■日程:

開催日 2005年7月14日(木) - 7月15日(金)

■場所:

財団法人機械産業記念事業財団 青山TEPIA

■昨年から追加された点:

1. 今年は、昨年のプロモーションタイアップ・プラス・アルファで告知の強化を図る
2. 情報誌記者への PR 活動
3. エンドユーザーによる発表
4. 会議ツール入門いろは小冊子の来場者無料配布
5. 一般ユーザー向けQ&A質問コーナー設置
6. テレビ会議技術を使ったアトラクション
7. 会期後 BCS Tokyo の会計報告

BCS Tokyo 2005 詳細、提案書一式:

<http://cnar.jp/bcstokyo.htm>

編集後記

今業界の有志でテレビ会議、ウェブ会議、電話会議の入門編の本を作ろうかという話をしています、現在数人挙手が上がっています。詳細問い合わせ、ご協力できる方、業界の企業いらっしゃいましたら、k@cnar.jp までお願い致します。

現在CNAウェブサイトの広告募集中です。詳細は、http://cnar.jp/home/CNAarchive/cna_ad.pdf

今号お読みいただきまして誠にありがとうございました。

CNA レポートジャパン
 編集長 橋本 啓介 k@cnar.jp (CNA レポートジャパン
 Vol 7. No.4 2005 年 2 月 28 日号終わり) 次号 Vol 7. No. 5 は、2005 年 3 月 15 日の発行を予定しております。